

東京講演会を開催

10月7日に東京の有楽町朝日ホールにおいて、第9回東京講演会を開催しました。

この東京講演会は、日頃、関西を中心に活動している奈良文化財研究所の調査・研究活動の成果を、広く東日本の皆様にご紹介することを目的に2010年から始めた企画です。今年で9回目の開催となりますが、毎回、切り口を変えて文化財研究の魅力や面白さをお伝えしており、今回は「デジタル技術で魅せる文化財—奈文研とITC—」と題して開催しました。

奈文研の主たる調査研究業務は、遺跡や遺物、古文書、文化財建造物等「古いもの」を対象としています。しかしながら、そこで得られたデータの整理・蓄積、公開・活用には、最先端のデジタル技術を利用しています。記録類の恒久的な保存、効率的かつ迅速な情報処理、効果的な情報発信等に今やデジタル技術は欠くことができません。

そこで、今回は、全国で刊行された発掘調査報告書を順次、電子化し、ウェブ上で一般に公開することを目指す『全国遺跡報告総覧』事業のほか、最新の3次元計測の方法、長期にわたって多くの方々にご利用いただいている木簡データベースの新たな展開、「高松塚古墳」のデジタルデータによる築造過程の復元、地震や火山噴火の予知・予測を目指した災害痕跡データベースの構築等、奈文研でおこなわれている数々のデジタル技術を活用した最新の調査・研究事例について、6名の研究員から紹介いたしました。

当日の来場者は340名で、メモを取りながら熱心に聴き入る方も多く見受けられました。

(研究支援推進部 梶原 孝次)



講演会風景